

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。〔15番 中村 実君登壇〕

○15番（中村 実君）

創生クラブの中村です。

今からだと5時を回ると思っていますので、早めに終わらせたいと思います。

糸魚川市の自殺対策と今後の取組について、1回目の質問を行います。

平成18年に自殺対策基本法が制定され、自殺者数は大幅に減少しましたが、新潟県においては、全国の中でも自殺率が非常に高く、平成24年には最悪の状況となったことから「新潟県自殺予防対策推進宣言」を発令し、自殺者撲滅に取り組んでいくと宣言しました。また、平成28年に自殺対策基本法が改正され、当市においても平成30年に「糸魚川市自殺対策計画」を策定し、市の実態を踏まえた自殺対策の見直しを行い、全庁的な取組を行ってききましたが、今までにどのような取組を行っているのか。また、自殺対策基本法に基づき自殺対策の指針として定められた自殺総合計画大綱が昨年10月に見直されましたが、この取組はコロナ禍の現状を踏まえた見直しだと伺っています。この自殺対策計画も令和5年度が最終年度となっていますが、次期計画に向けて、これまでの評価と今後の取組について伺います。

(1) 県と市の自殺者数の推移と原因、特に多い年齢層を伺います。

(2) 市の自殺対策計画策定に対し、県はどのように関わっているのか伺います。

(3) 昨年9月の自殺予防週間ではどのような啓発を行い、3月の自殺対策強化月間ではどのような事業を計画しているのか伺います。

(4) 市の教育委員会では、児童生徒への自殺防止教育または命の貴さをどのように教育しているのか伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

中村議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、令和4年の自殺者数速報値では、県は433人、当市では6人と減少傾向であります。原因につきましては、様々な要因が連鎖しておりますが、当市では、その一つとして、健康問題が大きく関係し、また自殺者数が多い年代は高齢者層であります。

2点目につきましては、県からは計画策定審議会に参画いただいております。

3点目につきましては、9月には市内医療機関やスーパーマーケット、図書館等にチラシを配置するとともに、イベントを通して自殺対策の意識づけを行ってまいりました。また、2月からは確定申告会場において、映像による啓発を行っております。

4点目につきましては、道徳科教育や特別活動を通じて、命を大切にする心を育む教育を推進しております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

2回目の質問を行います。

新潟県の自殺者数は、平成5年、6年と全国でワースト1という大変不名誉な数字となり、その後は徐々に減り始めてきましたが、令和2年、3年と、また少しずつ増えてきました。

糸魚川市においては、減少だと今、市長のほうからお話がありましたが、県全体を見ると増加傾向だということであります。これはコロナ感染によるストレスや精神的なダメージ、また仕事に行き詰まったことが原因と言われておりますが、市ではどのような傾向が見られるのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

当市におきましても、孤独を感じる方、あるいは経済的な問題を抱える方もおられ、多少なりともコロナ禍による影響があったものというふうに捉えております。

また、全国的には女性の自殺者が増加をしております、当市におきましても、コロナ禍前後では女性の割合が30.3%から45%に増加をしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

今ほど担当のほうから話がありましたが、令和4年度の自殺者数、女性のほうが増えてきているということで、特に女性の場合は60歳以上が多いというようなことも言われております。

国では、それに対しまして、女性に対する支援強化に力を入れて今、対策を取っているところがありますが、女性が多くなってきたということでありますが、糸魚川市として、女性に対しての自殺対策、どのようなことをやっているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

特に女性に限定をした支援というのは、行っておりません。

ただ、男女ともに80歳以上の高齢者に多くなっておりますことから、ケアマネジャーでありますとか、民生委員等と情報共有を図りながら、高齢者の鬱病予防の発見であるとか、見守り支援の強化に取り組んでいるということであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

自殺者、女性が多くなっているというのは、少し多くなってるだけなんですね。実際には女性の倍ぐらい、高齢者の方の自殺者のほうが多いということなんですよ。そうすると、やはり地域地域の特徴があるんじゃないかなというふうに思うんですね。だから、糸魚川の特徴、その自殺する人たちはどういうことで自殺するのかというその辺を押さえる必要があると思うんです。その辺の調査はしてますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

やはり当市においては、高齢者が多くなっております。また、働き盛りの方についても、実は少し多い状況があります。女性と男性を比べると、男性のほうが多いというような状況があります。

あと、時期的な、夏場が多いとか冬場が多いとか、そういう時期的なものもあるとは思いますが、そこまでの調査には、まだ至っておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

県内では、全体と見れば30代から50代が多いということなんですね。でも、糸魚川市を見た場合には、高齢者が非常に多いということなんです。

それで、今まだ、どの辺の調査もしてないということなんです、雪国特有の原因があるんじゃないかというふうに思っておりますが、その雪国というこの地域から外せないような、そういったことも今後調べていく必要があると思うんですが、それはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今お話がありましたように、雪国特有の、その原因というのは、当市も雪の降る地域であります、特にそこも詳しく調べたことはありません。

ただ、高齢者が多いということで、特に高齢者については、例えば人に迷惑をかけたくないだとか、あるいは自分の弱いところを見せたくないというようなことから、高齢者の自殺につながっておるんじゃないかなというふうに考えられますし、また冬期間は、気候的な問題もありますし、日照時間も短くなる。そういうところからストレスがかかるということも考えられます。

今お話のあった冬期間の自殺の傾向についても、今後調査してみたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

雪国特有の冬季鬱というのがあるそうなんですよね。魚沼地域振興局では、既にもう冬季鬱について、毎年毎年調査を始めているというふうに言われております。

一般的な鬱病は、食欲がなくなったり、眠れないというふうに言われていますが、冬季鬱の場合は、食欲が増して、甘いものが食べたくなる。今度、睡眠も眠くしょうがない、朝が起きれないという症状が続くそうであります。だから、やっぱり家族は、この辺の症状を見逃さないようにしていかなければいけないですし、周りの人にも周知していく必要があるというふうに思うんですが、この冬季鬱について、今後どのような対策を取っていききたいか、どのように考えていくのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今、冬季鬱について、中村議員から教えていただくような形になっておるんですけども、冬季鬱を特に、何ていいますか、その特徴を捉えて、そして対策につなげていくっていうことについては、当市については、まだそこら辺不足しておる状況だというふうに考えております。

今ほど魚沼地域の振興局の取組についてお聞かせいただきましたので、まずは、そこを参考にしながら、当市においてどういうことができるのか、検討を進めてみたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

どれもそうですけど、やっぱり冬季鬱にならないには、規則正しい生活を、まずするってことなんですよね。外に出て、太陽を浴びるといのが大変いいそうなんですけど、食べ物も、青い魚や肉やレバー、そして牛乳やチーズ、そんなものを取ると体にもいいようなことを言っております。この辺は、魚沼地域振興局のネットで私も見て、調べたものなんですけど、ぜひ、生かせるものがあればね、これはしっかりと情報を取って、同じ雪国だということなんでね、当市でもやっぱりしっかり取り組んでいただきたいと思います、改めてお聞きしますが、調べて、ぜひ取り組んでいただきたい。どうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

繰り返しの答弁になりますけれども、今ほど中村議員のほうから、魚沼地域振興局の取組についてお聞かせいただきました。私もその辺承知をしておりますので、それを参考にさせていただきながら、糸魚川市でどのような取組ができるのか、検討させていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

これは、やはり雪国特有なものだそうなので、結構知らない人が多いと思うんですよね、冬季鬱というのは。だから、冬場の鬱にかかりやすいということを、いかに皆さんから知っていただくか。特に山手のほうですよ。町内に近いほうは、買物に出たり、そういうのもあるんで、外に出る機会もあるかと思うんですけど、どうしても雪が多いと閉じこもりやすいので、その辺をしっかりと周知していただくということと、それを分かっていたら、なるだけ表に出ていただくということが大事だというふうに思っています。

次に、市のほうの自殺対策計画策定について、県がどのように関わっているのかということですが、県からは、審議会のほうに参画してもらってるというような話も伺いましたが、県から参画してもらってれば、糸魚川市に合った、県の様式を糸魚川市に合わせたようなものにつくり直して、分かりやすいものにつくり直してもらってるということによろしいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

自殺対策計画につきましては、厚生労働省が出しております、その手引きがあります。県からも助言を頂いておりますけども、決して県のものをそのままということではなくて、市の自殺の実態でありますとか、現状と課題を踏まえながら、見通しを立てて策定をさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

私も見さしてもらったら、大変見やすいね、いいものだと思うんですけど、あんまり市民周知がされてないようには思うんですよね。今後どのように、もう少しこの市民周知して、それを手に取ってもらうかというところが大事だと思うんですけど、その辺はどのように感じておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

前回の、今ある計画につきましては、策定したときに市の自殺の実態の概要でありますとか、事業概要、それから相談窓口等をまとめました計画の概要版を策定して、誰でも手に取って見ていただけるようにしながら全戸配布をさせていただきます。

また、ホームページへの掲載のほか、支援関係者の研修等に用いながら、広く周知できるように努めておるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

若い人たちのひきこもりだとか、不登校や障害者を対象にした事業として、「こまくさ」や若者サポートセンター、「癒<sup>いやし</sup>熱<sup>ねつ</sup>人」などがあるわけではありますが、このような場所があることすら分からない人も、そういうパンフレットを見たことないんで分からない人がたくさんいるということでもあります。どうすれば市民に、その情報が届くのかということのところだと思うんですが、最近では、公民館体制がしっかりとしてきたわけなんですよ。そういったところで、公民館で運動だとかゲームだとか、多くの人が集まっています。特にお年寄りが、毎日のようにして行くわけですが、そのように、そのような機会を捉えまして、自殺対策や悩んだときの連絡先、今言ったような場所ですよ。そういったものを、職員もたまには出向きまして、話をしてあげるとか、また、高齢者サロン活動への支援等も今後大事になってくると思うんですが、その辺の考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

市民の皆さんが集っておる、集まっている場所に、こちらから出向いて周知をするというのは、大変有意義な機会だというふうに捉えております。現在におきましても、高齢者サロン等における介護予防も含めた様々な活動支援を、市と地域包括支援センターが連携をして取り組んでおりまして、今後も様々な機会を捉えながら周知に努めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

やはり周知しっかりしていく必要があると思うんですよ。ましてや今あんまり知られていない冬季鬱、そういうような初期症状だとか、そういうものを、また居場所づくりの電話番号ですよ、そのようなものをしっかりと大きな字で書いて、そういう公民館とかね、そういう施設に貼って、周知することも大事だと思うんですが、その辺はいかがですか。そういうところに出かけて、貼っていただくというのはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

鬱病でありますとか、その予防でありますとか、相談窓口については、多くの人が集まる機会、あるいは各種事業などで広くお伝えできる工夫というのは、大切だというふうに考えております。

今ほど中村議員のほうからの提案のありました内容につきましても、その一つの手段として、今後考えていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

ありがとうございます。よろしくお願いします。

過去の自殺予防週間では、新潟県自殺対策推進月間と健康増進普及月間に合わせて、庁舎のロビーで食生活改善普及運動を行っていただきました。そのときに、運動や食事の大切さ、そういうものを重点的に取り組んでいただきましたが、昨年の自殺予防週間では、どのような取組を行ってきたのか。

また、先になります。9月に自殺予防週間がまたあるわけですが、そのときにはどのような取組を行っていく予定でいますか。まだちょっと時間が先なんです。お考えがあればお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

昨年の9月の自殺予防週間につきましては、県の自殺対策推進月間と併せて、相談窓口の周知の強化に努めてきたところであります。具体的には、医療機関でありますとか公共施設でのポスターの掲示とチラシの配布、それから、図書館では、心の健康づくりをテーマにした書籍の企画展示を行ったところであります。また、10月には、地域生活支援センター「こまくさ」のバタバタまつりにおきまして、心の健康づくりのブースを設置しながら自殺対策をPRしております。次年度につきましても、今ほどお話をさせていただいたような企画内容を中心に、今後、取組については検討させていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

1人でもね、少ない自殺者、自殺者を1人でも減らすようにいろんな対策を取っていただきたいと思いますが、今先ほど、確定申告を今やっていますけど、その辺のところではビデオを流しているということで、私も見させていただいたんですけど、あまり自殺の部分が見えないんですよ。いろんなビデオ、放映の中に自殺が入っているということなんで、できれば一連の動画なんで、そこだけ切り離して、重点的に放送する、見せるということも非常に難しいかと思うんですが、できれば命を救うためには、それぐらいインパクトのあるものを皆様に周知していくのも大事ではないかなというふうに思っておりますし、せっかく作った自殺抑止のパフレットもありますので、それも来た人たちに1部ずつ持って行っていただいているということでもよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

申告会場の放映については、他の周知内容も含まれておりまして、ちょっと自殺対策だけというのは難しいなというふうに考えております。

それと、パンフレットの配置につきましても、今現在は、配置は一人一人に手渡し等はしておりませんが、会場となります公共施設には、チラシの配布をお願いしておりますので、少しはおいでいただいた方から手に取ってもらえるのかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

結構、来ている方々を見るとお年寄りが多かったり、あんまり若い人がいないもんですから、ちょうどそれぐらいの対象者の人が多いんじゃないかなというふうに思いますので、ぜひパンフレットの配布をしていただきたいと思ひますし、自殺の相談窓口を見ると、全体に土日・祭日がみんな休みなんですよね、連絡が取れないという。糸魚川市の場合は、24時間連絡取れるところもあるわけですけど、24時間連絡取れるところをどのように周知しているのか、また、これからいくのか、また教えていただきたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

自殺の24時間の相談の窓口としましては、新潟県こころの相談ダイヤルというのを市のほうでは紹介しております。これはパンフレット、あるいはホームページに掲載をしながら、周知啓発しておるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

心の相談もありますけど、365日24時間受付しているのは、厚労省のほうでもね、そういうところがあるわけですね。よりそいホットラインとか、あなたのいばしょチャット相談、こういうものが今言われたのは、課長言われたのは、県のほうでということですが、厚労省のほうの場所もあるんで、24時間365日連絡できると。これをどのようにこの連絡先にたどり着くかというのは難しいんですよ。今言ったみたいに1点じゃないんで、多くの場所を市民の皆さんが相談できるような、これどういうふうに、市ではたどり着ける仕組みを持っているのかというのをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

市のほうでは、先ほどお話をさせていただきました新潟県こころの相談ダイヤルというのを紹介



をしておりまして、ほかのチャット相談だとかSNSを活用した相談については、正直、今まで周知はしておりませんでした。

今、中村議員から提案のありますように、相談者にとって利用しやすい相談につながるということが大切でありますので、SNSを活用した相談窓口についても、今後周知に努めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

ぜひ窓口を広げていただきたいというふうに思います。

次にですけど、これが置いてあるパンフレットなんですよね。これ見ると、チェックリストがここに載ってるんですけど、冬季鬱とチェックリストの内容がちょっと違ってるんですよ。だからチェックリスト、冬季鬱というのは分からなかったってことは知らなかったってことなんで、当然載ってないのは当然なんですけど、冬季鬱の場合は、痩せたり物忘れをする。怒りっぽくなったりといういろんな項目があって、その1つでも当てはまれば、医師に相談するか窓口で相談するということが大事だそうなんです。ぜひ、時期的なものでね、これから夏に向かって作るってものでもないかもしれませんが、例えば9月になったら、このチェックリストを作ってもらいたいというふうに思うんですけど、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

これまで季節に応じた、何ていうか、心の健康のチェックリストについては、市のほうでは、今持ち合わせておりませんでした。今ほどいろいろお聞かせいただいた内容を参考にしながら、その季節に応じた心の健康のチェックリスト、あるいは気づきについて少し研究をさせていただいて、取り組めるものがあれば、取組をさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

結構チェックするものが入ってるので、それもちょっと見ていただきたいと思います。

厚労省では、昨年から自殺未遂者の症例登録制度というのを開始したということです。それは再び自殺に走らないというような、そういうことに取り組んでいくということですが、市としても自殺対策と併せて再発防止を目的にした聞き取りや医療機関との連携、そのようなことをやっているのか、医療機関と連携を取っていくのかどうか、その辺をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

自殺未遂者への対応につきましては、保健所、それから医療機関と連携をしながら、事案が発生した際、これが精神科の受診が必要な場合は医療におつなぎしますし、そうでない方は、市でありますとか県の相談窓口を紹介しております。

しかし、相談を拒まれる方というのも実は多くて、最低でも相談窓口の連絡先が分かるそのチラシについては、ご本人あるいは家族の手に渡るような対応を取っております。

○議長（松尾徹郎君）

質問の途中であります、あらかじめお諮りいたします。

質問時間が、午後5時を過ぎることが予想されますことから、本日の会議時間を延長したいと思います。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

ご異議なしと認めます。

よって、本日の会議時間を延長することに決しました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

自殺未遂者じゃなくて自殺者の17%に自殺未遂者がいるというふうに言われております。自殺未遂者の支援を目的に、いのちとこころの支援センターというのが県内に3か所設置されているそうなんです、保健所においても、この取組がされているということですが、そこは自殺未遂者だけではなくて精神疾患患者の支援も行っているということなんですよ。この辺もやはり情報を市のほうでも流す必要があると思うんですが、これはもう情報は流しているんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

当市におきましても、保健所、それから、上越地域のいのちとこころの支援センターと連携を密にしながら、当事者への相談支援のほか、関係者間におけるケース会議でありますとか、支援経過の振り返りなどを行いながら、その支援の強化に向けて取り組んでおるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

ぜひ、先ほども言いましたけど、いろんな窓口がたくさんあるんでね。書いたものでしっかりと分かるようにしていただければありがたいというふうに思っています。

糸魚川市のほうでは、若者よりは高齢者の自殺者が非常に多いということなんですよ。

2025年には4人に1人、2045年には3人に1人が後期高齢者になるというふうに言われています。後期高齢者、やはりお年寄りになると自殺に追い込まれる。いろんな事情があるかと思うんですが、自殺に追い込まれないような取組を今のうちに、そういう年格好の人が増えてきますので、そういう取組を今のうちから進める必要が、私はあると思うんですが、もう既にそういう取組を行っているのか、予定しているのかをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

高齢者の自殺予防対策として、鬱病でありますとか見守りの強化だとか、自殺そのものの対策というのも当然大事なんでしょうけども、お年寄りが心も体も健康で健やかに生活していただけるということが、それと同じぐらい大切だというふうに認識をしておりますので、関係機関が連携をしながら、お年寄りが生き生きと生活をしたり、あるいは介護予防の推進に取り組んだり、そういうものを総合的な事業の展開によって、お年寄りの自殺対策に取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

高齢者が増えるのはね、これはしょうがないことで、高齢者が必ずしも自殺するってことじゃないんですよ。糸魚川市の場合は高齢者の自殺が多いということなんで、なるだけ対策を取るということは、なるだけ外出するような、例えば先ほども申し上げましたように、公民館でみんなと仲間と遊ぶとか、運動をするとか、そういうことを進めて、今のうちから出かけられるような体制を取っていただきたいというようなことを私は申し上げているわけですけど。どうしても雪が降ると、そういうこともできなくなるんで、その辺も併せた対策をしっかりと取っていく。だから、健康増進課だけじゃなくてね、ほかの担当課も併せた中で、そういう対策をしっかりと今のうちから取っていく必要があるんじゃないですかというふうにお聞きしてる。どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

自殺対策につきましては、庁内で関係する課が自殺対策庁内委員会というのを組織しております。その中では、福祉の分野、健康の分野、そして、何ていうか職業の分野、社会教育、いろんな関係課の職員がそれぞれ情報を持ち寄りながら、対策計画の事業展開でありますとかそういうものを取り組んでおりますので、改めて庁内委員会でもって、今ほどありました高齢者の自殺対策についても、1つの大きなテーマとして考えてみたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

ぜひそういう取組の中で、趣味を持っていただいたり、けがをしないように運動をしていただいたり、病気にならないように健診をしていただいたりというところにもつなげていただければありがたいなと思っています。

次に、自殺対策計画、これは次年度が最終年度ということですが、後期高齢者対策も次期自殺対策計画の中に盛り込まれていくのかどうか、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

高齢者の自殺が多い現状におきまして、後期高齢者対策というのは重要な課題であるというふう  
に捉えております。次期計画につきましても、高齢者支援に関わる関係機関からもご意見を頂きな  
がら、高齢者の自殺問題を共有して、内容の検討をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

上越市では、自殺者数が平成25年から減少傾向にあったんですが、令和3年に入ってから  
30代や中高生の男性の自殺が非常に増えてきたということで、自殺予防研修会、または地域包括  
支援センター職員やケアマネジャー等を対象にした睡眠に関する研修や鬱病等の際に早く気づく研  
修を実施しているということなんですよね。やはりこのようなことも糸魚川市でも研修会を開催し  
ていく必要があるというふうに思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

当市におきましても、高齢者と関わる地域包括支援センターでありますとか、ケアマネジャーな  
ど、介護福祉関係事業所の職員を対象にしながら、当市の自殺の現状をお伝えし、自殺リスクの早  
期発見、早期対応など、その対応力の向上を目的とした研修会だとか、事例検討会を開催をして  
おります。今後につきましても、効果的な研修、あるいは事例検討会の開催に努めていきたいとい  
うふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

結構、上越市さん一生懸命やってんだよね。ちょっと糸魚川市、出遅れてるのかなと思うところ  
ありますので、できれば3市ですよね、同じような境遇の中の妙高、上越、糸魚川市、連携を取り

ながらこういうことを進めて、情報のやり取りをしていただければありがたいなというふうに思います。

次に、児童生徒の自殺防止教育についてであります。文科省の学校における自殺予防教育導入の手引というものはあるんですが、手引の中に学校等における相談体制の整備が書かれておりました。市内の学校では、糸魚川市内の学校では、どのような相談体制を取っているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

日々の授業や休み時間の様子の観察、それから生活アンケートの記述、教育相談での発言などから、子供の悩みを早期に発見し、子供の声に耳を傾けることで、困ったときにいつでも相談できる子供と教職員等の信頼関係づくりに努めております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

相談を受ける体制ができてるといふようなことなんですが、そういう若い子供たちへの相談を受けるための研修や基本知識ですよね、そういうものを持った先生が相談に当たっているのか。そういうものがなくても身近な先生が相談に当たっているのか分かりませんが、そういう専門的な知識を持った相談を受けられる先生というのは特別にいらっしゃるものなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

学校等での相談になりますが、学級担任をはじめ、学年部の職員、それから養護教諭等が相談に当たっている場合が多くあります。場合によっては、市の教育相談員や県のスクールカウンセラーと連携して、専門的な知識を持った方ですが、そういった方と連携して、子供たちの声に耳を傾けるようにしております。県から出されております児童生徒の自殺予防リーフレットなどを活用して、子供の自殺予防に関する基礎知識を研修しまして、そういった相談に当たっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

ということは、各学校に専門的な相談を受けられる知識を持った先生というのは配置されていないことで何かあったときには、側のところから来ていただいて情報を頂くということなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

今ほど申し上げましたが、定期的に市の教育相談員が、学校を訪問する計画になっております。相談内容の、いろんな軽重ありますので、そういった相談内容に応じて県のスクールカウンセラーに来ていただいたりしながら、関係機関と連携しながら、子供たちの相談に当たれるような体制になっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

市の相談員さんが来て、見てもらってるということによろしいですね。

10代の自殺者の原因は、まず学校の問題が大変多いというふうに言われています。進路や入試、学業不振、友達関係などと言われてはいますが、市では今のところ自殺者は出ていないということで安心してはおりますが、子供たちの悩みや自殺について、特段自殺について決める必要もないんですけど、そういう自殺に気づくようなものについてのアンケート調査みたいなのは、子供たちから取っているんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

各学校において定期的に子供たちの学校生活に関するアンケートを取って、悩み事をしっかりと把握できるように教育相談などを通して実施しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

まあデリケートな問題なんでね、なかなか自殺についてどうですかとかというアンケートはね、そら取れないと思いますので、慎重にやっただけならばというふうに思っております。

上越市では、医療機関と情報共有してはまして、ゲートキーパーの普及啓発など、小中学校の職員を対象にした研修会の継続などを推進していくということですが、糸魚川市もこのような研修というのは取り組んでいるものなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

糸魚川市でも健康増進課と連携いたしまして、学校の職員や市の、今ほど申し上げました教育相談員等を対象に、毎年、自殺予防研修会を開催しております。今年度も新潟大学の先生をお招きして、希死念慮等を訴える子供の話の聞き方、対応における連携、予防教育等について研修を行っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

県では、学校等における相談体制の整備や若年者への教育や支援者への研修を行っているところで、弁護士会でも命を守る授業を行っているということですが、いじめ問題やSNSのトラブル防止、非行防止や薬物問題など、命の大切さを伝え、将来、様々な危機に直面しても周囲に相談し、乗り越えられる心を育てるというような事業をやっているそうなのですが、糸魚川市もこのような問題についてどのように取り組んでいくのか。取り組んでいるのか、いないかでもいいんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

現在、新潟県弁護士会では、子供や保護者、そして教職員を対象に、命に関わることも含めて、いじめやSNS、トラブルの予防などについて、授業や、それから研修を行っていただいております。糸魚川市の小中学校でも、毎年複数の学校でこの事業を活用させていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

SNSなんですけど、ニュースで今問題になっておりましたよね。SNSで自殺を呼びかけられて、17歳の高校生がそれに応じて26歳の男性を殺害したと。自分も一緒に自殺する予定でしたが、怖くなって逃げて、現場から立ち去って逮捕されたというのがニュースで流れていたわけなんですけど、SNSは、もう中学生になれば、もう十分見たり使ったりということに慣れている部分だというふうに思うんですが、糸魚川市でも今後、大変大きなSNSというのは問題になってくると思うんですが、既にSNSに対しての対策というのは取られているんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

子供たちのSNSということで、全国的にこの問題が大きくなっております。糸魚川市も同じような心配な部分ではあるんですが、子供からSNSのトラブル等に関する相談があった場合などは、まずしっかりと話をよく聞きまして、事実の確認、指導、そして保護者との連携等の対応を行っております。

また、予防教育としましては、各校でネット上のルールやマナーに関わる授業を行ったり、生徒総会や児童総会、いじめ見逃しゼロスクール集会などで、安全・安心なSNSの使用などについて子供たち自身が考える機会を設定したりしております。

さらに保護者に対して、入学式やPTA等の機会を捉えまして、ネット社会のルールでのマナーや、そういった使い方等について周知啓発を行っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

いろいろ子供たちに周知啓発、今してるということなんですけど、言葉ではなかなか入っていかないと思うんですね。今もうタブレット使ってる授業をしているということなんで、タブレットを介してそのようなことをやり取りしたほうが、お互いにその心が通じる部分があるんじゃないかなというふうに思います。ぜひそういうのも活用してみてください。

蘆本教育長にちょっと伺いたいんですが、全国の子供たちの死亡の中で、自殺が最も多い。特に夏休み明けに集中しているということで、夏休み明けの悲劇というふうに言われております。それで、どのように防ぐかというのが大変大きな問題となっておりますが、夏休みが終わり、学校に行く頃になるとお腹が痛くて行けなくなったとか、体調不良を訴えるなど、ストレスが体に表れてくる、そういう時期なんですね。そういう体の体調面や、ふだんと違ったような様子が見られたときには、気をつけて見守る必要があるというふうに思う。家では家族が体調不良を見ると、学校へ何らかの、何とか学校行けたとしたら、学校でも何らかのサインを出すというふうに思うんですが、そのサインを見逃さないような先生方の気配りが大変必要だというふうに私は思います。子供たちへの目配り・気配り、どのように指導しているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

お答えいたします。

子供たちのサインを見逃さない。そして、そのサインがもし出ていたら、そのサインにぐっと寄り添って、子供の心との対話を始めていくというような部分の流れが大事だろうというふうに思います。

学校の職員、小学校ですと担任が、朝の健康観察からずっと子供たちとほぼ1日見えています。それから中学校では、各教科の先生が授業ごとに教科指導に当たります。中学校の場合については、1日ずっと見てるというわけにはいきませんが、やっぱり子供の心のサインを見ようとする、



その問題意識は、学習指導の中でも持ってないというと、やっぱりただ単に教科指導だけじゃなくて、心に寄り添う先生の、何ていうかな、いろんな感覚的な部分も含めて、やっぱりアンテナを張って、見届けるといふような部分が大事だし、見たら、それを必ず誰かに、担任に伝えるとかという部分のところも教員同士のネットワークでは大変大事な内容です。

そんな意味合いからして、1学期中に何かの心の相談で話が出ていたり、悩みを抱えているような生徒がいたり、あるいはサインが見られたりというふうな子供についての見取りについては十分に酌み取って、夏休みにやっぱり家庭に帰しますので、その間がやっぱり子供自身の孤立化・孤独化が長く続く期間になるわけです。そこら辺りのところを何とか学校の関係者、あるいは保護者とも協力しながら、孤独化・孤立化を防ぐための心のキャッチボールをやっぱり続けていくという部分のところが一番大事だと思ってます。そんな意味合いで、夏休みに入る前、そして夏休みが明けて2学期のスタート前には、各学校の校長先生を通して、やっぱり心配になってる子供への糸を切らないというふうな部分の情報連携を丁寧にするようにということについては、毎学期それぞれ進めています。

中村議員おっしゃるように、一番やっぱり心配なのは、2学期明けです、2学期のスタートのときです。夏休み明けです。あるいはゴールデンウイーク明け、あるいは3学期のスタート、冬休み明けです。そんなようなその節目節目の部分のところを、いかに丁寧に酌み取りながら、やっぱり心と心のキャッチボールの中で孤立化・孤独化を防ぐための精いっぱい働きかけを教職員と共に、これからも進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

そうなんですよね。悩んだときに、親や先生や友達にしんどいとかつらいとかという言葉が投げかけられるような、具体的な言葉を投げかけられるような、そういう人間関係をしっかり持つことが必要だというふうに思うんですよね。そういうことは、先生同士はそういうことで気を遣って見てくれると思うんですが、友達同士でもこう打ち明けられるような、そういう体制というのもつくってるもんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

担任の役割ももちろんそうなんですけども、友達関係で、子供たちはよく休み時間に遊びます。それから登校、それから昼休みの遊び時間、放課後、あるいはクラブ活動の時間とか、そういう中で友達同士との関わりの時間が随分大事です。そんな場合に、やっぱり信頼のおける仲間づくりができてるかどうか、その辺の部分やっぱり教員にとっては、しっかりとその子供を理解するための1つの大きな窓になってると思います。あの子とあの子は今友達関係でうまくいってるなどか、あの子とあの子については不安がちょっとあるなどか、何か距離がちょっと離れたなどか、そうい

う子供の人間関係の中で、やっぱり気にかかった場合についてはちょっと声がけをしてあげる。ちょっと友達だったけどどうなったのかというふうな部分のきめ細かな気配り、声がけ、そしてその後のフォローみたいなものもやっぱり丁寧にやってやらないといけないと思います。学級会のほうでは、やっぱり友達づくりの関係でいろんなアクションを起こしながら班活動をやったり係活動やったり、友達関係づくり、人間関係づくりの活動みたいなものも丁寧に、今学校では進めている最中です。ですから、何かあったときに相談できるような友達関係を築くためにも、やっぱりそういった子供たちだけの時間みたいなものも、うんと大事にこれからも進めていきたいと思ってます。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

ぜひ友達づくり、しっかり努めて指導していただきたいと思います。

次に、磯野教育次長に伺いますが、今の続きなんですけど、子供同士でも相談に乗るような仲間づくりができる教育も必要だというふうに今思うんですが、やはり子供の一番の自殺に対しての心理の一番は、ひどい孤独感、孤独になるというのが自殺の第一歩だという。誰も助けてくれないとしか思えない。私のこと誰も助けてくれないんだ、そういうところが非常に、心理状態に不安に陥るといことなんですよね。そんなことがあると、どうしても自分の殻に引きこもってしまうので、誰にも相談できない、先生にも友達にも相談できないということになると。

課長とか教育長が言われたのは、やっぱり現場にいた人たちの声。教育次長は、市から見た今までの教育の中でどういうふうに思ってるのかというのをちょっと聞きたいんですが、勉強ばかりではなくて運動だとか趣味をね、生かした仲間づくりをぜひやっていただきたいというふうに思うんですが、次長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 豊君登壇〕

○教育次長（磯野 豊君）

学校以外でというようなご質問だと思います。

当然、孤独感の解消には、自分の思いを共有できたり悩みを打ち明けられたりとか人の存在ってというのは、非常にその子にとって大きな存在だというふうに思います。そういった仲間を増やすためにも、今、地域では、野球ですとかサッカーなどのスポーツ、あるいは公民館単位でも様々な文化活動、子供対象の活動も開催されています。その目的の1つは仲間づくりだというふうに思ってます。

全ての子供の興味を引くような活動をできるかどうかというのは難しいところではありますけれども、やっぱり出てきていただいて、昨日の一般質問じゃないですけど、自分の可能性も見つけられるかもしれませんので、やっぱりそういった活動を、その場を提供するというのは、非常に大事なことなんじゃないかなというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

趣味やその運動とかね、そういうものを通した仲間づくりというのは、非常にしやすいと思うんですね。そういうことも視野に入れて、指導していただきたいと思います。

最後に、市長にちょっと伺いたいんですが、自殺直前のサインというのは必ずあるというふうに言われております。例えば自殺をほのめかしたり、ノートやメモに計画や絵を描いたりということもするらしいんですけど、また友達に自殺の日程などを告知するというとも言われております。一番分かりやすいのは、刃物やロープ、睡眠薬、そういうものを買求めるところ、それは家庭じゃないと分からないんですけど、いろんなサインが子供たちがそういうものを発してくる。

子供たちの、糸魚川市では子供の自殺者がいないということですが、それは対策が行き届いているから、子供のそういう自殺がないんだらうというふうに思っております。私が思うのは、その慣れが非常に危険ではないかな。今までの対策が、それが正しいんだと思って、そのまんまにしていると、どこかに落とし穴があるのではないかなというふうに思っております。

例えば先ほど言ったSNS、いろんな問題が、今まで考えられなかったような問題がまた起きてきています。新たに全庁挙げて、担当だけではなくていろんなところを、市長がトップになって見直しをしていくときが来てるのではないかなというふうに思ってるんですが、市長のお考えをお聞きします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

糸魚川の町というのは、そんな大きい町ではございません。都市ではございません。その中で地域コミュニティや、この地域の住んでおられる人々の顔が、みんな分かる関係の町だと思っております。そういう中で、やはり今いろいろテレビ報道や新聞報道等々出ているような犯罪というのは、起こらないのではないかと、住んでいる方々はそういう思いでおられるんじゃないかなと思っておられるわけですが、しかし、コロナ禍で、よりこのSNSだとかいろいろ、リモート関係だとかいろいろ物すごい電子媒体が進化してくる中において、情報はどこからでも入ってくる部分があるわけでありまして、

そういう中で、我々、この糸魚川の子供たちが犠牲にならないということはない部分もあるのではないかなと思ったりもいたしていただいております。そういう中に、今、議員ご指摘のような自殺のいろいろまた誘惑といいたしましうか、ちょっとやはり人間関係が少し希薄になったときに、ふとそういういうところに陥りやすいところもある部分もあるのではないかな。非常に昔みたいに人が、子供たちが多きときには、もう日々仲よくなったりけんかしたり、その繰り返しがあるわけですが、そういう経験のない子供たちにとっては、非常にやはり孤独に陥りやすい部分もあるのではないかな。そういったことを考えたときに、やはり日々の変化を常に見ていく、一番は、やはり、ご家庭であったり、そしてまた学校現場であったり、そしてさらには地域で見守っていく

必要があるのではないかな、そういったところをより、少子化になってきたときに、少子化だから大事だ、子供たちがいっぱいおるときは関係ないんだということではないんですが、少子化になればなるほど、やはり地域の子供たちは大切に育てていきたいと思ってる次第でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

子供のうちに強い心を育めるような、そんな取組をしっかりとしていくことによって、ある程度年を取っていても、こういう自殺とか、こういうもの乗り越えていけるのではないのかなというふうに思いますので、糸魚川市は自然が大変多いところでありますので、自然を使って心を育むということも取り組んでいっていただきたいというふうに思います。

最後になりますが、子供が自殺という行為に及ぶ前には、救いを求める必死の叫びを上げているということですが、そのサインを的確に捉え、自殺の危険を察知したら正面から向き合って、真剣に関わっていくことが大事だと、文科省の教師が知っておきたい子供の自殺予防に書かれております。子供たちと先生との信頼関係が一番だということです。ぜひ、子供たちと信頼関係を築き上げていただきたいことをお願いいたしまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、中村議員の質問が終わりました。

本日は、これにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

〈午後5時29分 延会〉

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員